

催吐リスク
軽度
放射線併用なし

投与プロトコル コース 21日間 コース制限なし 《開始時基準 PS:0~1・年齢:18歳以上》		投与量	投与日	投与時間	備考
ルートKeep	生食 500mL	—	Day1	—	
①	初回 パージェタ:840mg/body ----- 生食 250mL	mg	Day1	60分	
	2回目以降 パージェタ:420mg/body ----- 生食 250mL	mg	Day1	下記参照	
経過観察	下記参照				
②	初回 <input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:8mg/kg <input type="checkbox"/> (ハーセプチン:8mg/kg) ----- 60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解 (溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注 ----- 生食 250mL	mg	Day1	90分	
	2回目以降 <input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:6mg/kg <input type="checkbox"/> (ハーセプチン:6mg/kg) ----- 60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解 (溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注 ----- 生食 250mL	mg	Day1	下記参照	
経過観察	下記参照				
プレメディ	5-HT ₃ 受容体拮抗薬+デキサメタゾン+生食100mL		Day1	30分	
③	ドセタキセル:75mg/m ² ----- 5%ブドウ糖250mL	mg	Day1	60分	

- ◆トラスツズマブ(ハーセプチン)は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分まで短縮できる。
- ◆経過観察:パージェタ及びトラスツズマブ(ハーセプチン)投与終了後、Infusion reactionの発現がないことを確認してから、次の薬剤を投与する。初回は30分の経過観察を行い、2回目以降は様子を見て短縮可能。
- ◆前回投与日から投与間隔が6週間以上の場合、パージェタ及びトラスツズマブ(ハーセプチン)ともに初回投与量を再投与。
- ◆催吐リスクは、ドセタキセル:軽度、パージェタ、トラスツズマブ(ハーセプチン):最小度だが、前投薬で5-HT₃受容体拮抗薬は必要。

佐賀大学医学部附属病院